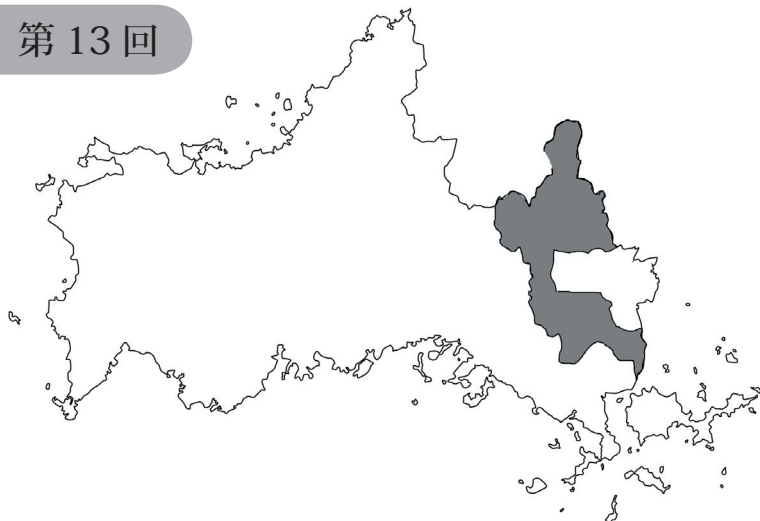


郡市医師会めぐり 第 13 回

玖珂医師会



平成 18 年の大合併で玖珂郡は和木町以外すべて岩国市となり、平成 25 年 4 月、新公益法人制度に伴い名称を「玖珂郡医師会」から「一般社団法人玖珂医師会」に変更したことを最初に述べてさせていただきます。

玖珂郡医師会（現在は玖珂医師会）は、明治 20 年に山口県の医会準則にて「玖珂郡医会」の記載があり、当時より医師会としての組織があったものと考えられ、明治 42 年前後には玖珂郡医師会も設立、当時の会員は 91 名であったとのことですが詳しい資料は残っていません。大正 9 年 3 月に改正医師会令によって、新しい玖珂郡医師会が設立され、以後の経過は「医師会誌」に残っており、これを現在の玖珂医師会の創立としました。今年で玖珂医師会は創立 93 年を迎えた事になります。その間、昭和 15 年 4 月の岩国市制の施行に伴い玖珂郡医師会から岩国市医師会が分離独立、昭和 29 年 10 月には柳井市誕生により柳井医師会結成となっています。このような歴史については、玖珂郡医師会会報編集委員会の発案により平成 5 年度の事業として記念誌発刊に取り組み、平成 6 年 1 月 1 日『玖珂郡医師会 75 周年記念誌』を刊行しており、その中に詳しく記載されています。記念誌に興味をお持ちの方は医師会事務局にご連絡いただければご用意させていただきます。

玖珂医師会は、旧玖珂郡の町村である錦町、本郷村、美川町、美和町、周東町、玖珂町の医療機関と由宇町の一部医療機関で構成されており、現在、診療所が 13 機関、市立診療所 1 機関、私立病院 7 機関、市立病院 2 機関で、一号会員 29 名、二号会員 19 名、三号会員 2 名の計 50 名の会員で活動しています。地理的には旧岩国市の北・西・南に接して取り囲むように位置しており、面積も広く岩国市中心部への移動にはかなり時間がかかる地域もあります。また玖北の 2 病院と 1 診療所は自治医大の先生方で支えていただいております。今までも各地域で少ない医療機関が地域に根ざして長く医業をされてきた歴史がありますが、今後も新規の開業などは見込めず、現在ある医療機関で地域医療を支えていくしかないのは明白です。当地域の基幹病院として国立岩国医療センターと岩国市医療センター医師会病院があり日頃から頼りにさせていただいていますが、地理的にはその他島根県や広島県の病院、柳井・徳山地域の病院にもお願いする事があります。

先にも述べましたように、平成の大合併で岩国市には玖珂医師会と岩国市医師会の二つの医師会が存在する事になりました。お互い協力して行政に対応しており、新岩国市の郡部の状況や事情に関しては合併前以上に強く行政に訴えるようにしております。当医師会は小規模であり、もちろん

看護学校や医師会病院等の事業はできませんが、日曜・祝日の休日当番や一部医療機関による岩国市医療センター医師会病院での急患センターへの出務、介護認定審査会、行政との協議会、住民健診、予防接種、岩国地域産業保健センター事業への協力、ケアマネ・医師の合同協議会、定期的な学術講演会の主催など積極的に取り組んでいます。また年 2 回の玖珂医師会報の発刊や、県内でも立ち上げの早かった医師会ホームページの運営（玖珂中央病院の吉岡院長のご尽力による）も行っています。会員同士の交流は勉強会やゴルフコンペ（白玖医会）などで行っていますが、やはり参加される方が固定化してきていることは気がかりです。

郡部では、今後も医師会員の増加は望めず、会員の高齢化も相俟って医療機関の減少も懸念され、さらに今まで国が行ってきた医療制度改革は中小病院の救急医療からの撤退や看護師不足に拍

車をかけ地域医療の存続をも難しくしています。診療報酬アップも望めず医師・看護師不足、救急医療・地域医療崩壊等々、今後の医療情勢は多難ですが、どうにか地域医療を支えていくべく会員で心折れずに頑張るしかないと考えます。

最後に玖珂医師会にとっても名誉な事ですが、今年の春、美川町で開業されている福田瑞穂先生が旭日双光章を叙勲されました。美川町で開業されて以来 40 年間、過疎地の地域医療において学校医・玖珂郡医師会長等を務められ、その地道な功績が認められたものと思います。このことは医師会員の励みとなり、今後も過疎化していくと予想される地域の医療を絶やす事無く支えていくべきと会員も感じています。今後も玖珂医師会は地域医療を支えていく存在であり続けたいと思っています。

[玖珂医師会学術・生涯教育担当理事 山下 秀治]

